

## 春陸にみる青春の頁 その2

つなぐOB、指導者・・・そして選手たち

春陸には東部、県の時期になると自然とOBが集まる。進路が決まった者、就職が決まった者、あるいはふと思いついたように足を運ぶ者・・・様々だ。



### ★黒須のセンス

投擲場では黒須が槍を再び投げ始めた。今季から関西学生選手権へ挑む黒須は、母校で槍の感触を確かめている。ご存知のようにインターハイ選手である黒須だが、故障で「完

全」な状態では高校時代は投げられていない。大学ではそのたぐいまれな槍投げセンスを、ついにフルパワーにして挑んでほしい。とても楽しみだ。



さすがに黒須が投げると周囲も見入ってしまう。



槍の伝統は、黒須、平原、細田へと引き継がれていく。

10年後、3人がこのスリーショット写真で飲む日がくるといいなあ・・・と思った。  
私は細田選手の御尊父とは毎年お酒を飲ませていただいているのだから。  
脈々と流れる春陸のつながりだ。



#### ★屈強なる嶋村

砲丸投げでは嶋村が天野の指導に励んでいた。  
大学では競技を続けなかったというが、さすがの嶋村の投擲。  
高校砲丸12ポンド時代、東部制覇、県大会入賞、高3で県選手権も入賞している。



## ★石川と4年ぶり

競技場では石川と久しぶりに再会できた。

(参照 <http://www.kasuriku.net/nomo/175.pdf>)

「野本さん！」・・・と声をかけられ、そこには石川が！

4年ぶり（右写真は2007学総の熊谷にて）  
のうれしい再会であった。



メールで今年、教員になったことは聞かされていた。

そして陸上部の指導者としてこれから頑張っていくのだという。

東部地区陸上のレベル向上に大きく貢献してくれるのは間違いないだろう。

## ★工藤時代の長距離三羽カラス

昨年、ついに1990年代の長距離の春高記録が更新された。

20年近く破られなかった3000mSCの記録は、やっと大久保によって書き改められた。しかし、800m、1500m、5000m、10000mは変わらず破られる気配はない。

その記録を競い合いながら高めたのが、1992年の3人。

福田、黒川、浅野

春高歴代記録の上位を独占する彼らは、互いの記録を同年中に更新しあった。昨年の竹村会には福田、黒川の二人が参加してくれた。



この日、副管理人の吉田も広島から参加してくれた。いわずと知れた1600mRの春高記録保持者だ。

竹村さん、工藤さんの門下生でさえ、もう社会人として中堅の世代。なかなか校庭に来るのは難しいだろうが、OBが酒を酌み交わす親睦会にはなつかしい顔が集まってくれる。

世代や学年の敷居はない。

グラウンドであれ、懇親会であれ、100年の長きにわたってこの現役～OBの流れが途絶えていないのは、なかば奇跡的でもある。その理由は、学校の歴史があるからとか、全国大会の強さ・・・ということではないと思う。

みな、それぞれ青春時代が楽しかったから・・・

理由は、これに尽きるのではないだろうか。

春陸とはそういうクラブだ。